



「国際女性の日」(2006年3月8日)  
ファン・ソマビア ILO 事務局長メッセージ

「国際女性の日」は、ジェンダー平等に向けた継続的な歩みを振り返る日である。また、世界の女性たちの勇気と力、前進と成果を称える日でもある。そして、最も根本的には、社会を脅かすさまざまな社会・経済・政治的課題を解決するうえで、世界の女性たちの全面的な参加と十分なエンパワメントが必要不可欠である、という基本的な真実を認識する日である。

今年の「国際女性の日」の世界的なテーマは、意思決定と女性 - 課題に取り組み、変化を創り出す - である。仕事は、女性の社会進出における重要な領域であり、世界各地で女性たちが職場を変革し続けていることは疑うべくもない。過去 10 年間に、働く女性の数は 2 億人増加した。現在、世界中で働く人々の 40 パーセント以上を女性が占めている。また、今年の国際女性の日における ILO のテーマであるスポーツ界においても、女性の存在感は増している。

女性のための機会は増え、仕事におけるジェンダー格差はゆっくりとではあるが縮小している。女性の教育は向上し、女性による起業も増えている。そして、いまだかつてないほど多くの女性たちが、より高い教育水準を達成し、上級管理職の地位に進出している。

しかし、ここに至るまでの道のりは長く、平坦なものではなかった。前進の一方で、世界各地の仕事場では、依然として不平等が蔓延し、報酬面の格差も未だに現実であり続けている。男性と女性の「職務格差」は、特に質の面において大きいままである。意思決定をする立場にある女性の数は少数に留まり、人をケアする(介護、育児など)責任は、従来どおり女性の肩に重くのしかかっている。働く女性を支援しない政策や慣行は、女性たちが苦勞して勝ち取ってきた前進を損ないかねない。このような政策の失敗は、子供や家族、コミュニティや社会に対してもマイナスの影響をもたらすこととなる。

国際女性の日之际して、あまりにも多くの女性たちが、低賃金で法律の保護も受けられず、社会保護も皆無かそれに等しく、きわめて不安定な仕事 - しばしばインフォーマル経済に見られる - から抜け出せないでいることを、改めて思い起こしたい。貧困の女性化とジェンダー差別は日々の現実である。ILO は、世界の働く貧困層の 60 パーセントを女性が占めると推計している。彼女たちの選択肢は限られており、意思決定の範囲も制限されている。

昨年、北京行動綱領の実施状況を評価するための国連特別総会が開かれた。この総会では、調和のとれた社会経済開発におけるディーセント・ワーク<sup>1</sup> の役割が認識されている。ディーセント・ワークは、差別からの自由を含む、仕事における基本的原則及び権利の尊重の上に構築される。ディーセント・ワークは組織化・発言権・雇用・社会保護に重点をおく統合的な開発課題である。国際社会が確認したように、ディーセント・ワークの実現は、遠大な波及効果を生む。それによってジェンダー平等を真に支持する仕事の実現するだろう。女性の所得と機会を改善することは、家族を貧困から救い、経済・社会的進歩の原動力となることが認識されている。

国際女性の日、ジェンダー平等と社会正義を地球的に希求する基本的な手立てとして、ディーセント・ワークを推進することを決意しよう。

<sup>1</sup> 権利、社会保護、社会対話が確保され、自由と平等、働く人々の生活の安定が保障され、人間としての尊厳を保てる生産的な仕事